

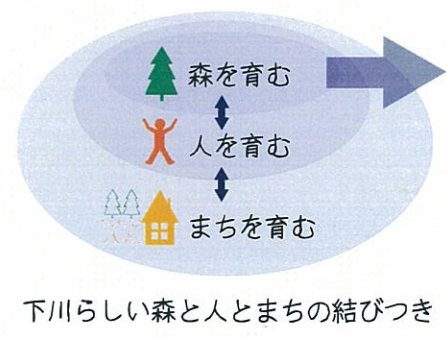
はぐくむ  
つながる  
よりそう

すまい

下川町  
21世紀環境共生型モデル住宅

下川町は北海道の北東に位置する人口約3800人のまちです。  
町の面積の約90%は森林でおおわれています。

年間の最高気温が約30℃、最低気温が約-30℃と、  
年間の温度差が約60℃にまで達する、  
日本の中でも最も「寒暖の差」が激しい地域です。  
降雪は、11月中旬ころから4月中旬ころまで続き、  
積雪は累積で約9m、最深積雪は1.2mを超えます。  
北海道特有の冬が長く夏が短い地域です。

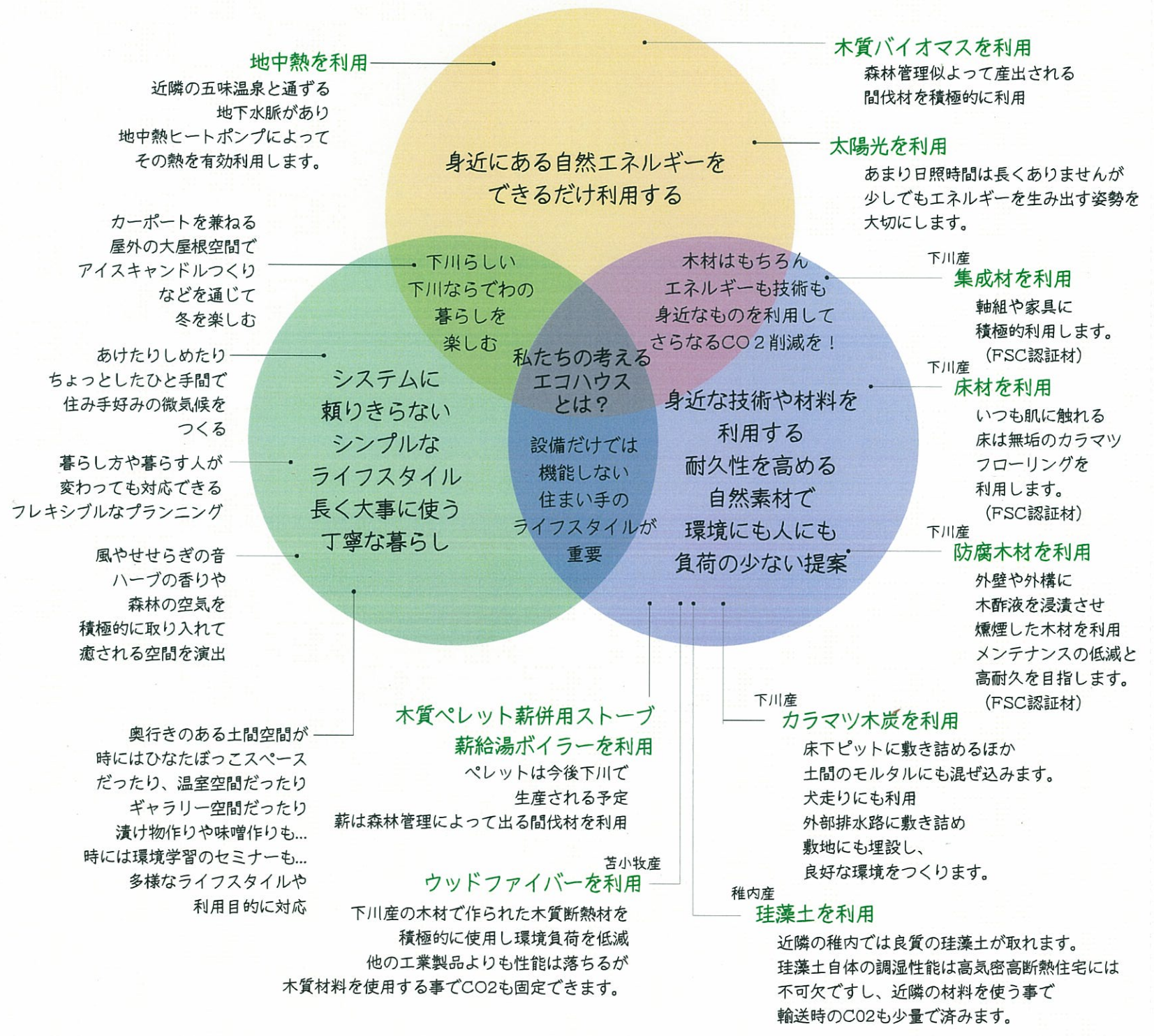


環境共生型モデル住宅のあり方

森を育むことで  
人も育まれ  
まちが育まれる  
森と人とまちをつなげる  
エコロジカルなネットワークの拠点としての  
モデルハウスを提案します

下川らしい森と人とまちの結びつき

私たちが目指す下川のエコハウスとは.....



- ・ 森を育むことで人がはぐくまれ、それはまちを **はぐくむ** きっかけづくり。  
地場の木材を積極的に利用する事でまちの人の意識向上につながるのと同時に、  
林業の振興をより高める事に通じる。→環境負荷低減に繋がる。
- ・ 森と、人と、まちが **つながる** エコロジカルネットワークの足場となる場。  
建物の利用目的を環境教育や体験移住、宿泊、エコ普及活動など多岐に広げる事で  
森と人とまちの接点となり、そこから発信する情報の拠点となる。
- ・ 土地の記憶を次世代に継承し、決してでしゃばらず、奥ゆかしく木々に **よりそう** たたずまい。  
まちの人々の記憶に残り、愛される建物である事で長く利用して頂き、  
さらなる環境負荷の低減をはかることと、経年変化でますます森になじんでいく外観は  
森のまち下川町の建物としてふさわしい姿であると考えます。
- ・ シンプルで力強い**北国のフォルム**。  
大きく出た庇、シンプルで力強いボリューム、森や前面の木立と呼応する  
縦ラインを強調した外壁、外壁に使用する下川産のカラマツ、これらがからみあい  
北海道らしい、下川らしい力強いフォルムが構成された。
- ・ 下川生まれの材料をふんだんに使い、**ウッドマイレージ削減。ゼロカーボンとFSC認証**をめざす。  
下川だからこその環境配慮の姿勢をつよく示すことでモデルハウスとしての存在価値を高めることにつながる。  
○ **ウッドマイレージ削減**は、下川の木材を積極的に使用する事により劇的な削減をめざす。  
○ **ゼロカーボン**は、木材をはじめ、その他の材料についても極力近隣のものを使用する事で輸送によって出る  
CO2を極力少なくし、同時に暖房、給湯などによるCO2は最新技術で可能な限り削減、同時に建物に木材を  
ふんだんに使用する事によるCO2の固定、草屋根と外構植栽によるCO2吸収などにより、  
CO2排出ゼロをめざす。  
○ **FSC認証**は下川産FSC認証材を建物全体の木材使用量の99%以上にし、FSCプロジェクト認証取得をめざす。  
FSC認証を受けた木材を使用する事は健全な森林育成と利用において望ましい姿勢であり、  
森のまち下川のモデルハウスとして、不可欠であると考えます。
- ・ 手厚い断熱と高機能な木製サッシの採用で  
**厳しい冬期の環境でも伸びやかな外部とのつながりを持った空間を実現**。  
どんなに性能が優れたエコハウスも、快適に、楽しく暮らす生活の器としての機能がなくては無意味である。  
厳しく長い冬期間をいかに快適に楽しく暮らせる提案ができるかという事が、  
全国20カ所の中で最北の下川町でエコハウスを建設することの大きな意義であると考えます。  
Q値0.9のトリプルガラス(ダブルLOW-E,グリーン)を採用し、木質断熱材(壁:300mm 天井:500mm)と  
jフレーム構造により、それを実現する。  
厳冬の北国でどこまで開放的に快適に、外部との繋がりを獲得できるかの挑戦である。